

## 縄文時代の石器と土器

みま そまのかわ  
水間町・杣ノ川町 水間遺跡・杣ノ川イモタ遺跡出土

縄文時代早期～晩期（約 10000 ～ 2300 年前）



水間遺跡 縄文時代石器

およそ1万年前には日本列島の気候も温暖化し、西日本にはカシヤシイなど常緑樹の林が広がりました。シカやイノシシを捕るために石鏃（石の矢じり）を用いた弓矢がこの時代に使われるようになります。尖頭器は槍先、石錐は穴あけ、削器、石匙はものを切ったり、削ったりする万能ナイフと考えられています。また、ドングリなどの木の実を粉にする敲石と石皿から食生活の一端がわかります。



杣ノ川イモタ遺跡 縄文時代早期深鉢（左）・中期深鉢（右）

土器の出現により肉類や野生のイモ類などの煮炊きが可能になり、食料も増え、人々は狩りの方法も変え、定住するようになります。煮炊きに使われた深鉢形の土器の表面には縄目の文様（縄文）がつけられているものが多いことから縄文土器と呼ばれ、時代の名ともなっています。奈良市東部の盆地や山麓は山の幸や野の幸に恵まれ、縄文時代早期から晩期まで人々の生活の場となったことがわかります。